

STRATEGIC IP TECHNOLOGY REPORT

欧米主要・国内 知財 AI プラットフォーム 比較調査

Agentic IP / Patent AI

機能・成熟度・ガバナンス・導入選定

対象：IPRally Agent / Patlytics / PowerPatent / Specifio・Paximal / Lightbringer / ClaimMaster / PatentPal

国内比較：AI Samurai / Patentfield / サマリア / Tokkyo.Ai

GPT-5.6 Sol

調査の結論

欧米勢は「クレーム要素単位の証拠」「訴訟・FTO・OA までのライフサイクル」「企業向け統制」で先行。一方、日本勢は日本語・JPO 実務・価格・研究開発現場への導入性が強い。現時点では単一製品で Patlytics 相当を再現するより、国内ツールを役割分担させ、弁理士・調査担当者の承認ゲートを組み込む構成が現実的である。

REPORT MAP

目次

01	エグゼクティブ・サマリー	結論、選定の要点、前提修正
02	調査方法と評価軸	Agentic の定義、証拠レベル、比較基準
03	欧米主要プラットフォーム詳細	7 製品・サービスを個別分析
04	日本の代表プラットフォーム詳細	4 製品を現行機能と成熟度で分析
05	横断比較	機能、事業モデル、セキュリティ、国内適合性
06	導入戦略と推奨構成	用途別選定、PoC、ガバナンス
07	前提主張の検証と参考資料	訂正表、一次情報一覧

本書の読み方：経営判断は第 1・5・6 章、製品選定は第 3・4・5 章、契約・PoC 設計は第 6 章、ユーザー提示情報の検証は第 7 章を参照。

01 EXECUTIVE SUMMARY

1. エグゼクティブ・サマリー

最重要結論

「AI エージェント」という同じ呼称でも、検索代行、文書生成、Word 内の規則チェック、弁理士付きフルサービスでは責任範囲がまったく異なる。比較の単位は製品名ではなく、①対象業務、②根拠追跡、③人の承認点、④法域、⑤データ処理、⑥サービス責任である。

1.1 7 つの結論

- 1. 検索・新規性評価の専用性では IPRally Agent が際立つ。発明開示を特徴へ分解し、グラフ AI 検索と根拠付き Feature Chart を一体化する。ただし、2026 年 7 月時点の Agent は新規性・特許性調査が中心で、FTO・無効・NPL は Agent 機能として未提供またはロードマップである。[1][2]
- 2. 機能の広さでは Patlytics が最も包括的である。侵害、無効、FTO、SEP、NPL、クレーム解釈、明細書、発明開示、Office Action、ポートフォリオを同一基盤に置く。公開価格はなく、企業・大手事務所向けのデモ販売が中心である。[5]–[9]
- 3. PowerPatent と Specifio は同一製品群ではない。PowerPatent は現行のクラウド型ドラフティング・コパイロット。Specifio は買収済みの旧サービスで、その公開プロフィールは技術的系譜が Paximal に残ると説明する。現状比較では PowerPatent と Paximal を別製品として見るべきである。[11]–[17]
- 4. Lightbringer は SaaS というより、プラットフォームを用いる弁理士付きマネージドサービスである。最終チェックだけでなく、弁理士がドラフト、出願、OA、国際展開を継続担当する。比較対象はソフトウェアライセンスより、従来の特許事務所契約である。[18][19]
- 5. ClaimMaster と PatentPal の役割は逆方向に近い。ClaimMaster は Word 内の規則・整合性監査が核で、PatentPal はクレームから本文・図面を生成する狭いドラフティング支援である。PatentPal を形式エラー修復製品とみなすのは不正確である。[20]–[26]
- 6. 日本に Patlytics と一対一で対応する単一製品は見当たらない。サマリアは JPO の拒絶対応・無効化書面・明細書・発明提案へ急速に拡張し、AI Samurai は検索・評価・作成に加えて MCP 連携を開始、Patentfield は大規模査読・分析、Tokkyo.Ai は社内技術文書を起点とする探索に強い。[27]–[40]
- 7. 国内企業の実装解はベスト・オブ・ブリードである。検索母集団と一括分析、案件単位のクレーム対比、ドラフト・OA、Word 品質検査、弁理士レビューを分離し、成果物と監査証跡を連結する方が、1 製品に全責任を集中させるより制御しやすい。

1.2 製品ポジショニング早見表

製品	主戦場	Agentic 深 度*	最大の強み	主要な留意点
----	-----	-----------------	-------	--------

製品	主戦場	Agentic 深 度*	最大の強み	主要な留意点
IPRally Agent	新規性・特許性	L2	グラフ AI + 特徴単位の根拠追跡	現 Agent は新規性中心、NPL 未対応
Patlytics	全ライフサイクル	L3	侵害/FTO/OA/ドラフトを統合	価格非公開、法域別品質を PoC 要確認
PowerPatent	明細書初稿	L1-2	クレーム・図面起点のドラフトと §112 診断	自律的な従属項網羅展開は公開情報で未確認
Paximal	明細書初稿	L2	複数エージェントで用語・クレーム支持を整合	Specifio とは現行契約主体が異なる
Lightbringer	出願・権利化運用	L4	弁理士付き固定価格のエンドツーエンド	SaaS 比較ではなく法律サービス比較
ClaimMaster	品質監査・定型化	L0-1	Word 内・ローカルの規則検査とテンプレート	自律エージェントではなくユーザー主導
PatentPal	本文・図面生成	L1	クレームから仕様書・図面を素早く生成	QA/エラー修復は中心機能ではない

* 本書の分析尺度：L0=規則・定型自動化、L1=生成支援、L2=複数工程ワークフロー、L3=検索・分析・生成をまたぐツール使用型、L4=専門家サービスを含むマネージド型。ベンダーの公式等級ではない。

1.3 日本企業にとっての実務的な示唆

- 欧米出願・FTO・訴訟案件：Patlytics 等の法域別モジュールを PoC し、日本語翻訳精度よりも原文引用・ピクンサイト・クレーム要素の対応を評価する。
- 出願前の大量スクリーニング：Patentfield AIR やサマリア調査支援で母集団を圧縮し、重要案件だけ IPRally 型の特徴単位検証または専門調査へ送る。
- 日本の OA・無効・明細書：サマリアの JPO 文書ワークフローは国内適合性が高い。出力は校閲記録付き素案であり、弁理士レビューを前提とする設計自体がガバナンス上の強みである。[35]–[38]
- 発明者セルフサービス：AI Samurai ONE/MCP、Tokkyo.Ai、サマリア発明提案のいずれも候補。企業内資料の持ち出し、発明者認定、アクセス権、プロンプト・出力ログを契約前に確認する。
- 最終品質：ClaimMaster 相当の決定論的チェックは生成 AI と競合せず補完関係にある。日本語明細書では、用語統一、符号、引用関係、サポート要件のローカル QA を別工程で維持する。

出典：[1]–[40]

02 METHOD

2. 調査方法と評価軸

2.1 調査範囲

調査基準日は 2026 年 7 月 25 日。原則として、公式製品ページ、公式ヘルプ、公式プレス発表、料金表、セキュリティ説明、規制当局・専門職団体の資料を使用した。機能追加が速い市場であるため、本書は契約時点の仕様を保証するものではない。

- 欧米：ユーザー指定の 5 群を、現行の製品実態に合わせて 7 製品・サービスへ分解。
- 日本：機能的な近接性と公開情報の充実度から、AI Samurai、Patentfield、サマリア、Tokkyo.Ai を代表例として選定。
- 価格：公開価格のみ記載。個別見積、トークン、公式料金、外国代理人費用は分離。
- 性能：短縮率・精度・許可率は、独立第三者の再現試験がない限り「ベンダー公表値」と扱う。

2.2 「AI エージェント」の判定

段階	定義	代表的な動作	本書での例
L0	規則・定型自動化	決められた検査、差し込み、変換	ClaimMaster の規則検査
L1	生成支援	ユーザー入力→要約・本文・図面	PatentPal、PowerPatent の一部
L2	ワークフロー型	分解→検索/分析→成果物を複数工程で実行	IPRally Agent、サマリア
L3	ツール使用型	DB・NPL・複数案件を横断し計画・再検索・包装	Patlytics、IP Samurai MCP
L4	マネージド型	AI 工程と有資格専門家の役務を一体提供	Lightbringer

重要：L が高いほど法律判断の品質が高い、という意味ではない。高自律性は、誤りの連鎖、権限過大、再現性低下も増やす。高リスク案件では、低自律・高検証可能性の方が適切なことがある。

2.3 比較する 12 軸

軸	確認内容
業務範囲	発明発掘、検索、FTO、侵害、無効、ドラフト、OA、ポートフォリオ
入力	テキスト、PDF、Office、画像、図面、社内文書、製品資料
検索基盤	収録件数、法域、全文、ファミリー、法的状態、NPL、Web 証拠
クレーム粒度	文書単位か、請求項・構成要件単位か

軸	確認内容
証拠追跡	原文引用、段落・頁、検索履歴、理由、信頼度
自律性	計画、分解、再検索、ツール利用、成果物作成
人の承認	どこで停止・修正・採択できるか
法域適合	USPTO/EPO/JPO 等の文書・論点・提出形式への適合
セキュリティ	学習利用、保持期間、暗号化、認証、処理地域、第三者、監査証跡
提供形態	SaaS、Word アドイン、API/MCP、マネージドサービス
価格	座席、トークン、案件、年間サービス、公式料金・代理人費用
成熟度	一般提供、β、参考実装、発表段階、導入実績の公開

2.4 法的・職業倫理の前提

米国では USPTO が AI ツールの使用自体を禁止していない一方、署名・真実性、機密保持、情報開示、輸出管理、出願アクセス等の既存義務を再確認している。日本弁理士会も、生成物の正確性を弁理士が確認し最終責任を負うこと、機密情報、個人情報、著作権、説明責任等への注意を示す。[41][43]

日本では、無資格事業者が他人の求めに応じ報酬を得て出願書類等を作成する形態は弁理士法 75 条との関係が問題になる。METI のグレーゾーン解消制度の回答や日本弁理士会資料は、弁理士の確実な関与・監督が重要であることを示す。[42][44]

本書の立場

AI 出力は調査・起案・レビューの出発点であり、特許性、非侵害、無効、権利範囲、提出適格性を保証する法律意見ではない。FTO・侵害・無効は対象国、基準日、クレーム解釈、法的状態、均等論等を含む専門家判断が必要である。

出典：[41]–[44]

03 WESTERN PLATFORMS

3. 欧米主要プラットフォーム詳細

3.1 IPRally Agent（フィンランド）

項目	確認結果
分類	説明可能な新規性・特許性調査エージェント
主入力	テキスト、PDF、画像、Word/PowerPoint/Excel 等
検索基盤	約 1.2~1.3 億件の特許を知識グラフ化。審査官引用で学習した Graph AI
主成果物	特徴単位の Interactive Feature Chart、根拠・理由、書面レポート、IPRally プロジェクト
公開価格	個別見積のサブスクリプション。3 日間の通常製品トライアル案内あり
Agentic 評価	L2：分解→確認→複数検索→特徴評価→レポート

確認できたワークフロー

1. 発明開示を取り込み、候補クレームと技術的特徴を抽出する。
2. ユーザーが抽出結果を確認・修正する。ここが重要な Human-in-the-loop である。
3. Graph AI で複数の検索ケースを実行し、結果を特徴レベルで評価する。
4. 各特徴と先行文献の対応、理由、引用を Feature Chart と報告書にまとめる。
5. 通常の IPRally プロジェクトへ引き渡し、担当者が検索ケース、Ask AI、関連度を再確認する。

強み

- キーワード表現の揺れを超えて技術関係を探す設計。特徴単位の検索・評価の経路を開ける「ガラス箱」志向。
- 2~5 分程度という処理時間を Q&A で公表。手書きメモや図面を含む開示にも対応すると説明。
- ユーザー入力を学習に利用しない、ISO 27001、GDPR、顧客別暗号鍵、コア AI の自社ホストを公表。

限界・契約確認

- 2026 年 7 月時点で Agent が正式にサポートするのは新規性・特許性調査。通常の IPRally 製品には FTO 等の用途があるが、Agent の FTO・無効モジュールはロードマップ扱い。
- NPL は Agent では未対応。化学構造は扱えても専門化学検索の代替ではない。
- UI・出力は英語中心。日本語入力・日本公報の横断検索精度、翻訳されたクレーム要素の忠実性を PoC する必要がある。

- サイト内で 120M+と 130M+が併記されるため、本書は幅で表記した。件数より収録法域・更新頻度・法的状態を契約書で確認すべき。

ユーザー提示内容の評価

「PDF を入れるだけで構成要件分解、検索、対照表とサマリーを数分で作成」は概ね確認できる。ただし“各請求項”は入力が正式請求項でない段階もあり、AI が抽出した候補クレーム・特徴をユーザーが確認する工程を省略してはいけない。

出典：[1]~[4]

3.2 Patlytics（米国）

項目	確認結果
所在地	米国発。本社はニューヨーク市。サンフランシスコ拠点も有する
分類	企業・法律事務所向けのエンドツーエンド知財 AI 基盤
検索基盤	130M+特許、300M+文献、審査履歴。特許/NPL セマンティック検索
主要モジュール	侵害、無効、FTO、SEP、ポートフォリオ、クレーム解釈、明細書、OA、発明開示、Agent
公開価格	非公開・デモ/個別見積
Agentic 評価	L3：検索・証拠収集・分析・文書化を案件横断で実行

侵害・FTO

製品資料（PDF、PPTX、DOCX、会議記録等）から特徴を抽出し、関連する独立請求項を検索・スクリーニングし、limitation-level の対比表を作る。FTO では Disclosed / Suggested / None や High / Medium / Low / None といった表示、Word/Excel 出力、引用位置付き成果物を公表する。侵害側では公開 Web 情報をクロールして evidence of use を収集し、クレーム解釈を踏まえたチャートへつなぐ。[5][7]

Office Action

拒絶理由通知、クレーム、明細書を取り込み、拒絶・引用文献を構造化し、応答戦略と修正・意見のドラフトを生成する。ユーザーが戦略を選び、行単位に承認・編集する設計が明示される。したがって「審査官の論理的欠陥を自律発見して完成反論を出す」と断定するより、「拒絶と記録を分析し、相違点・応答戦略・素案を提示する」と表現するのが正確である。[5][6]

明細書・発明開示

スライド、画像、要約等から構造化された発明開示を作り、先行技術検索、クレームツリー、本文、テンプレート、法域・技術別スタイルを連携する。生成後に **written description / enablement** や侵害観点を確認する機能も公表される。[5][8]

強み

- 検索から訴訟・権利化までを同じデータ、クレーム解釈、証拠形式で連結。国内製品に少ない訴訟・SEP・NPL が厚い。
- SOC 2 Type II、ISO 27001、ISO 42001、GDPR、暗号化、組織データ分離、顧客データをモデル学習に使わない方針を公表。
- 2026 年 4 月に 4,000 万ドルの Series B、累計約 6,500 万ドル、Am Law 100 の 40%利用をベンダーが公表。継続投資力の指標にはなる。

限界・契約確認

- 顧客事例の 80～90%短縮、数千～数万ドル削減はベンダー公表値。案件難易度・レビュー工数・再作業を含む総 TAT で再測定する。
- 日本語/JPO の OA 文書様式、均等論、禁反言、訂正・無効審判、裁判例連携の深さは公開ページだけでは判断できない。
- 自動クレームチャートは初期仮説に有用だが、クレーム解釈、法的状態、ファミリー、対象製品の公開証拠、秘匿仕様を専門家が検証する必要がある。

所在地の訂正

ユーザー提示の「サンフランシスコを拠点」は一部正しいが、現在の公式採用ページは本社をニューヨーク市とする。報告上は「米国発（NY 本社、SF 拠点）」が正確。

出典：[5]–[10]

3.3 PowerPatent / Specifio / Paximal（米国）

まず分けて考える

PowerPatent と Specifio は別会社・別製品。Specifio は買収済みの旧サービスで、公開プロフィールはその技術的 DNA が Paximal に残ると説明する。本節では、①現行 PowerPatent、②旧 Specifio、③現行 Paximal を分離する。

A. PowerPatent

項目	確認結果
----	------

項目	確認結果
位置づけ	クラウド型の明細書初稿作成・協働・診断コパイロット
入力	発明要約、クレーム、図面、図面の部品リスト・注釈
出力	背景、予備クレーム、長文の詳細説明、図面連携、§112/クレーム診断
価格	200 トークン 199 ドル。追加 1 トークン 1 ドル、6 か月で失効（公開価格）
セキュリティ	SOC 2 Type II を公表。入力を学習に使わない旨を説明

公式説明で確認できるのは、要約/クレームと図面注釈から包括的な初稿を生成し、§112 やクレーム支持の問題をフラグするワークフローである。ホームページには発明開示、図面管理、Graphical Claim Drafting、Computer Aided Description、協働、Private PAIR 連携も列挙される。[11]–[14]

- 強み：既存のクレームと図面を中心に、長文本文との対応を機械化する。公開価格が明確で小規模 PoC を始めやすい。
- 留意：数行の独立請求項から従属請求項の“網羅的バリエーション”、図面仕様、本文を完全自律で一元生成するという強い主張は、現行公式ページだけでは確認できない。
- 留意：AI が生成した技術詳細の事実性、実施可能性、クレーム支持、発明者の寄与は専門家・発明者が確認する。

B. Specifio（旧サービス）

Specifio の公開プロフィールは、弁理士が作成したソフトウェア方法クレームから、システム・方法図を含む部分完成の仕様書を数分で作り、弁理士が高付加価値編集で完成させるサービスだったと説明する。過去の公表では 20～30 ページを約 2 分としていた。[15]

- 現状：プロフィール上は「Acquired」。新規導入比較で現行 SaaS と同列に扱うべきではない。
- 技術系譜：同プロフィールは“Specifio’s DNA now lives on at Paximal”と記載するが、契約・データ移行・機能同一性を意味しない。

C. Paximal（現行の近接系譜）

Paximal は、複数の調整されたエージェントがセクションを組み立て、用語を調和し、特徴をクレームへマッピングし、fallback support を埋め込むと説明する。弁理士が最初に保護対象、主要独立項、初期従属項、用語、実施形態を設定するため、完全自動より“弁理士主導の Agentic drafting”に近い。[16][17]

- 入力：IDF、技術仕様、設計書、コード抜粋、図面、ホワイトペーパー、スライド、実験ノート等。検索は β 表記。
- 統制：カスタムドラフティング・エージェント、Juristat/MCP による審査傾向の利用、SOC 2、米国内処理・保存、学習不使用、第三者共有なしを公表。

- ベンダーが示す約 4 時間の準備時間や OA 結果は、自社生成案件の観察コホート。対照群・母数・技術分野を契約前に確認する。

出典：[11]–[17]

3.4 Lightbringer（欧州発・グローバル）

項目	確認結果
分類	AI-first の特許マネージドサービス + 共通ダッシュボード
対象	成長企業・deep tech の出願、権利化、国際化、ポートフォリオ
担当範囲	発明捕捉、戦略、ドラフト、出願、OA、PCT/各国移行、競合監視
人の関与	案件担当の弁理士・製品スペシャリスト。弁理士がドラフト/レビュー/提出管理
公開価格	Starter：1 出願あたり年€5,999 / US\$6,999 / SEK59,995 + 官費
Agentic 評価	L4：AI エージェントと有資格専門家の一体型サービス

Lightbringer は発明の特許化可能性を AI で整理し、戦略ビルダー、週次監視、ダッシュボードを提供する。ただし、核心は“AI が作って最後だけ弁理士”ではなく、専任弁理士が技術分野に応じてドラフト、出願、OA、国際展開まで担うフルサービスである。[18][19]

強み

- 法的責任とプロジェクト管理をサービス側に寄せられる。発明者・経営者が法律ツールを直接操作する負担が小さい。
- 固定価格で予算化しやすい。Starter は付与判断までの 1 件管理、OA 管理、外国代理人費用、競合監視を含むと説明（官費は別）。
- SOC 2 Type II、世界各国出願、複数拠点を公表。100+ founders / 20+ countries はベンダー公表値。

限界・契約確認

- 価格表の“decision to grant”が不服審判、分割、継続、面接、翻訳、超過 OA、年金、訴訟等のどこまでを含むか、SOW で明確化する。
- 日本出願は可能と説明するが、日本語明細書の起案主体、国内弁理士との役割、翻訳責任、弁理士法との整合を確認する。
- 従来事務所と比べた 70%高速化・50%低コストはベンダー値。難易度・国・クレーム数・OA 回数をそろえた実費比較が必要。

比較上の注意

Lightbringer の代替候補は“国内 SaaS”ではなく、「国内弁理士法人 + AI プラットフォーム + 固定価格マネージド運用」。ソフトウェア価格だけで優劣を付けると誤る。

出典：[18][19]

3.5 ClaimMaster / PatentPal（米国）

A. ClaimMaster

項目	確認結果
分類	Microsoft Word アドイン型の品質監査・文書自動化
中核検査	Antecedent basis、誤った従属関係、補正状態、用語/符号、明細書支持、図面形式等
生成	クレーム変換、フローチャート、図面説明、要約・要旨、OA シェル、フォーム
処理	検査はローカル/オンプレミス。GPT はユーザーの明示指示で外部または私有エンドポイントへ
価格	公開画面で 1 人月 30～75 ドル表示。年払いは 20%割引、構成により変動
Agentic 評価	L0-1：規則検査＋オプション生成。ユーザー主導

ClaimMaster の価値は“LLM の知能”より、Word 文書を構造的に読み、特許実務の機械的・論理的エラーを再現性高く検出する点にある。結果は Word、HTML、PDF でレビューでき、規則やテンプレートを事務所別に調整できる。[20]–[24]

- 強み：機密文書をクラウドへ上げずに校正可能。既存 Word 業務に自然に入り、生成 AI の見逃しを決定論的に補完。
- 強み：GPT/ローカル LLM、OpenAI/Azure/Claude、ローカル例文 DB を選べる。生成機能を無効化する運用も可能。
- 限界：自律的に文書を“修復して提出可能状態にする”エージェントではない。指摘・レビュー・テンプレート変換を担当者が承認する。

B. PatentPal

項目	確認結果
分類	クレーム起点の仕様書・図面生成
入力	クレーム文書
出力	方法フローチャート、システム/装置ブロック図、図面詳細、要約・サマリー
編集	表現プロファイルを作成し、Word、Visio、PowerPoint へ出力
データ	AWS 処理、HTTPS 暗号化、必要な範囲を除き文書内容/出力を保存しないと説明
Agentic 評価	L1：ワンクリック生成に強い狭域アシスタント

PatentPal はクレームから仕様書と図面を生成する製品であり、Antecedent basis や従属関係の自律監査・修復を主機能としていない。ユーザー提示の「ClaimMaster / PatentPal = 形式・論理エラー修復エージェント」は、ClaimMaster には概ね近いが PatentPal には当てはまらない。[25][26]

両者の使い分け

PatentPal は“空欄を埋める”生成、ClaimMaster は“誤りを見つける”検査。競合というより連続工程であり、生成→発明者確認→弁理士編集→ClaimMaster 型 QA が自然。

出典：[20]–[26]

04 JAPAN PLATFORMS

4. 日本の代表プラットフォーム詳細

日本市場では、検索 DB、査読 AI、発明提案、明細書、拒絶対応が別製品に分かれてきたが、2025～2026 年にワークフロー統合と MCP/Agent 化が急速に進んだ。以下は、現行一般提供と新規発表を分けて評価する。

4.1 AI Samurai ONE / ZERO / IP Samurai MCP

項目	確認結果
ONE	検索、AI 審査シミュレーション、A-D 評価、クレームチャート、IP Landscape、特許文書作成
ZERO	対話型の発明聴取・特許文書作成、図面内容の文章化
対象 DB	ONE の公開説明では日本・米国・中国。MCP も日米中の実データ直結を公表
MCP	2026 年 7 月 2 日提供開始。Claude 等から検索・分析・書類作成をツール呼出し
価格	ONE/MCP は個別見積
Agentic 評価	ONE=L1-2、MCP=L3（提供開始直後のため成熟度は要検証）

現行機能と新規性

AI Samurai ONE は、自然文検索、詳細検索、類似文献、構成要件別クレームチャート、登録可能性の A-D 評価、生成 AI による文書作成を統合する。国内の発明者・中小企業に理解しやすい UI と、検索・評価・作成の一体性が特徴である。[27]

IP Samurai MCP は 2026 年 7 月に提供開始され、既存の生成 AI クライアントと日米中の特許 DB をつなぎ、特許調査、競合分析、SDI、発明発掘、提案書、請求項、明細書、OA、ポートフォリオ、戦略の 10 業務を対象とする。通常 8 時間の IP Landscape を約 30 分とする事例はベンダー公表値である。[28]

欧米製品との比較

- IPRally との共通点：自然文入力、類似文献、クレームチャート、発明者利用。差は IPRally のグラフ AI・検索ケースの透明性と、AI Samurai の日本語・A-D 評価・明細書作成。
- Patlytics との共通点：MCP で広いワークフローを狙う。差は Patlytics の NPL、侵害証拠、SEP、訴訟チャート、企業統制に関する公開実績の厚さ。
- 成熟度：ONE は既存商用、MCP は提供開始直後。10 業務すべての同一品質・再現性を示す独立ベンチマークは公開情報で確認できない。

導入時の確認

- A-D は法的な登録可能性保証ではない。評価根拠、検索母集団、再現性、閾値、ユーザー修正による変化を検証。
- MCP クライアント側の会話ログ、モデル学習/保持、ソール権限、出力先、秘密情報の越境処理は、MCP サーバーだけでなく全体構成で評価。
- 2026 年 7 月に旧 IP LANDSCAPE 特許検索等の終了告知もあるため、移行計画と長期サポートを確認。

出典：[27][28]

4.2 Patentfield / Patentfield AIR / API

項目	確認結果
分類	グローバル特許検索・可視化・大規模生成 AI 査読
収録	約 8,000 万件を AI 要約。JP/US/EP/CN/KR/TW/WO、DOCDB 書誌
AIR	最大 1 万件を一括要約・分類・抽出・翻訳・対比・ポートフォリオ分析
連携	検索、マップ、AI セマンティック検索、分類予測、Excel、API
価格	基本 Mini 1 は月 2 万円、AIR は 1ID 月 3 万円～（税別）。Free/BASIC/法人プランあり
Agentic 評価	AIR=L1、API+利用者構築 MCP=L2。公式 MCP 完成品とは区別

強み

- 数千～1 万件の検索母集団を同じ指示で一括処理し、結果を公報原文・マップ・Excel へ戻せる。ランドスケープ、SDI、競合分析に強い。
- 独自要約、用途/課題ラベル、セマンティック検索、画像認識、数値・組成抽出など、企業のバルク分析に向く。
- ISO/IEC 27001・27017 取得を公表。AIR はモデル提供者 API を使い、入力を学習に使わないと説明。BYO API キーも用意。

エージェント化の実態

Patentfield 公式 note は、Patentfield API を FastMCP で MCP 化し、Claude Desktop から先行例調査を実行する構築手順を公開している。これは API の拡張性を示す一方、現時点では利用者が Python 環境と MCP サーバーを構築する“参考実装”であり、ベンダー運用の完成済み MCP サービスと同義ではない。[32]

限界・契約確認

- AIR は大規模査読・分類に優れるが、提出書面・OA 戦略・訴訟用クレームチャートを自動完結する製品ではない。
- OpenAI API 利用時の不正利用監視目的の最大 30 日保持が公式ヘルプに記載。Zero Data Retention や Azure private endpoint 等の要否を契約で確認。
- ベンダー公表の最大 65%工数削減、検索適合率 3.8 倍は評価データ・クエリ条件を確認し、自社の再現率重視タスクで再測定。

出典：[29]–[33]

4.3 サマリア（パテント・インテグレーション）

項目	確認結果
分類	日本の特許読解・調査・拒絶・無効・明細書・発明提案ワークフロー
調査	文書アップロード→検索式/集合生成→全件読込→技術評価
OA	拒絶解析、応答方針、意見書案・補正書案、AI チェックリスト
起案	明細書、無効化関連書面、発明提案書。Word 校閲記録・コメント付き素案
対象法域	発明提案の従来技術調査は JP/US/EP/WO を公表
Agentic 評価	L2：ワークフロー型エージェント。人間主体を公式に明示

機能の広がり

2025 年 12 月の調査支援では、対象クレームや発明提案書をアップロードすると、AI が複数の特許分類検索式を作り、結果を統合し、文書全件を読み込んで技術的調査結果を出す。2026 年 1 月には拒絶解析に加えて応答方針、意見書案、補正書案、妥当性チェックを追加した。[34][35]

2026 年 2 月には異議申立書案、無効審判請求書案、刊行物等提出書案と証拠説明書案、同年 3 月には明細書作成、5 月には発明提案書・アイデア創出・JP/US/EP/WO 調査を追加。国内では最も JPO の手続書面へ深く踏み込む公開ロードマップの一つである。[36]–[38]

強み

- 出力をそのまま提出できない“素案”として Word 校閲記録・コメント付きで渡し、弁理士監督を明示。責任分界が実務的。
- 調査→従来技術選定→新規性/進歩性→応答/無効書面→チェックリストを一貫化。日本語と JPO 文脈で Patlytics に最も近い部分がある。
- 発明提案では課題・構成・効果の構造化、不足質問、論理矛盾/構成不足の検出、複数発想フレームを提供。

限界・契約確認

- 侵害・FTO・SEP・公開 Web 証拠収集、米国訴訟形式の claim chart は Patlytics ほど公表されていない。
- 機能追加が非常に速いため、プランごとの利用可否、入力上限、モデル、保持、法域、テンプレート、監査ログを最新仕様で確認。
- ベンダー自身が“完全自動化は難しい”“人間主体”と説明。これは弱点ではなく、高リスク文書に適した設計原則と評価できる。

出典：[34]–[38]

4.4 Tokkyo.Ai / MyTokkyo.Ai

項目	確認結果
分類	製造業・中堅企業向けの社内技術文書＋特許探索・出願支援
入力	技術メモ、試作報告、PDF/Word/Excel、特許管理リスト
Agent	検索方針を設計し、情報抽出、不足時の再探索、根拠表示
出力	特許比較、社内文書対比表、要約、出願文書ベース草案
価格	2026 年 4 月以降 1ID 月 3.5 万円（税別）、初期費用 0 円と公表
Agentic 評価	L2：Technology Explorer で計画→探索→再探索

強み

- 社内の非構造化技術資料と公開特許を横断し、研究開発・出願判断の入り口を一つにする。現場技術者の参加を意識した設計。
- 2026 年 3 月の Technology Explorer は、質問理解、調査計画、必要情報抽出、再探索、プロセス可視化・根拠表示を公表。単なるベクトル検索より Agentic。
- 日本語 SaaS で低価格。PDF/Word/Excel 取込、既存特許との差異、複数クレーム案の検討など、発明者セルフサービスに適合。

限界・契約確認

- 2025 年の提供開始資料では日本語のみ（他言語準備中）。海外法域の原文クレーム・NPL・OA・訴訟証拠の深さは確認が必要。
- “2 倍以上の精度向上”は自社独自スコア。評価集合、再現率、baseline、クエリ構成は公開資料だけでは不明。
- 将来機能としてランドスケープ自動生成、出願戦略、ポートフォリオ可視化を掲げるものがあり、現行実装と将来計画を分ける。

出典：[39][40]

4.5 国内 4 製品の役割分担

国内製品	得意な入口	得意な処理	最適な利用者	欧米の近接例
AI Samurai	発明概要・自然文	検索、A-D 評価、チャート、文書、MCP	発明者、知財部、中小企業	IPRally + Agent 基盤の一部
Patentfield	検索母集団	最大 1 万件の一括査読・分類・分析	調査/分析チーム、IP ランドスケープ	検索分析基盤 (IPRally 通常製品)
サマリア	クレーム、OA、発明提案	調査、OA、無効、明細書、Word 素案	弁理士、知財部、調査担当	Patlytics 権利化側
Tokkyo.Ai	社内技術文書	探索、比較、再検索、出願草案	製造業 R&D、中堅企業	IPRally Agent + IDF

比較表から読み取れること

- 単一製品を Patlytics へ一対一対応させるより、入口・大量処理・案件起案を分業させる方が実態に合う。
- 国内勢は日本語・JPO 文書・発明者参加・公開価格、欧米勢は NPL、侵害証拠、訴訟・FTO、企業統制の公開説明に強い。
- 海外高リスク案件は欧米製品・現地専門家、国内日常業務は国内製品とし、原文引用・案件 ID・承認履歴を共通化する。

05 COMPARISON

5. 横断比較

5.1 欧米製品の業務カバレッジ

凡例：◎=中核・高度、○=正式機能、△=補助/限定/β、―=公開情報で確認できず。これは公開機能の広さであり、品質スコアではない。

製品	発明	検索	NPL	FTO/侵害	明細書	OA	QA	管理
IPRally Agent	○	◎	―	△*	―	―	△	○
Patlytics	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
PowerPatent	○	△	△	―	◎	○	○	○
Paximal	○	△β	△β	―	◎	△	○	○
Lightbringer	◎	○	△	△	◎	◎	○	◎
ClaimMaster	―	△	―	―	○	○	◎	△
PatentPal	―	―	―	―	◎	―	△	―

* IPRally 通常製品には FTO 用途があるが、Agent の FTO/無効は 2026 年 7 月時点でロードマップ。

5.2 国内製品の業務カバレッジ

製品	発明	検索	大量査読	FTO/侵害	明細書	OA	無効	MCP/API
AI Samurai	◎	◎	△	△	○	○*	—	◎
Patentfield	△	◎	◎	△	—	—	—	◎
サマリア	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	△
Tokkyo.Ai	○	◎	○	△	○	△	—	△

* AI Samurai の OA は IP Samurai MCP の対象業務として公表。既存 ONE の成熟機能と同一視せず PoC する。

5.3 根拠追跡・Human-in-the-loop

製品	根拠の見せ方	人の承認点	評価
IPRally Agent	特徴ごとの理由・引用、検索ケース開示	抽出クレーム/特徴確認、結果再検証	説明可能性が最も明確
Patlytics	引用付きチャート、ピンサイト、信頼度	戦略選択、行単位編集・承認	高いが案件ごとの原文検証が必要
PowerPatent/Paximal	クレーム支持・用語整合・§112 診断	保護方針、用語、実施形態、最終編集	ドラフト統制に強い
Lightbringer	ダッシュボード+担当弁理士	弁理士が起案・提出管理	サービス責任が明確
ClaimMaster	規則別の指摘とローカル報告	修正を担当者が採否	再現性が高い
サマリア	解析・チェックリスト、Word 校閲記録	弁理士監督で提出文書化	日本実務に適合
Patentfield	AI 結果を公報原文と並べて確認	母集団・指示・ラベルを担当者が調整	大量査読の検証に向く
Tokkyo.Ai	調査プロセス・根拠表示を強化	人が意思決定	現場導入向け、精度指標は要検証

5.4 セキュリティとデータガバナンス

製品	公表認証/方式	学習利用・保持	導入時の重点確認
IPRally	ISO 27001、GDPR、顧客別暗号鍵	ユーザー入力を学習に使わない	生成 AI サブプロセッサ、処理地域、削除 SLA
Patlytics	SOC 2 II、ISO 27001/42001、GDPR	顧客データを学習に使わない	組織分離、監査ログ、保持 90 日設定、越境
PowerPatent	SOC 2 II を公表	学習不使用を説明	LLM 提供者、保持、顧客鍵、輸出管理

製品	公表認証/方式	学習利用・保持	導入時の重点確認
Paximal	SOC 2、米国内処理/保存	学習不使用、第三者共有なしと説明	例外サブプロセッサ、削除、バックアップ
Lightbringer	SOC 2 II	法律サービスとして機密管理	弁理士秘匿、外国代理人、法域間移転
ClaimMaster	ローカル Word アドイン	検査は送信なし。GPT は明示操作	外部 GPT 設定、Private endpoint、端末管理
PatentPal	HTTPS/AWS	必要な範囲を除き文書/出力を保存しない	認証、監査、削除、サブプロセッサ
Patentfield	ISO 27001/27017	API 入力は学習不使用。OpenAI 最大 30 日保持記載	BYO 鍵、ZDR、専用クラウド、API ログ
国内その他	公表粒度に差	契約・モデル設定に依存	個社環境、2FA/SSO、ログ、処理国、削除

5.5 ビジネスモデルと総コスト

型	代表	課金	見えにくいコスト	向く組織
企業 SaaS	Patlytics、IPRally	年額/個別見積	導入、SSO、データ移行、学習、レビュー	大企業、事務所、複数案件
トークン SaaS	PowerPatent	199 ドル/200 token	再生成、専門家編集、図面仕上げ	小規模 PoC、案件単位
座席 SaaS	Patentfield、Tokkyo.Ai	月額/ID + オプション	LLM 利用量、API、専用環境	国内知財部、R&D
Word アドイン	ClaimMaster	月額/ユーザー	端末配備、テンプレート整備、GPT 利用料	特許事務所、US 実務
案件サービス	Lightbringer	1 出願/年 + 官費	追加 OA、翻訳、分割、審判、年金	スタートアップ、外部化
機能別 SaaS	サマリア、AI Samurai	プラン/個別見積	機能上限、指示数、専門家レビュー	国内企業、弁理士

5.6 日本勢と欧米勢の構造的な差

観点	欧米上位製品	日本上位製品	意味
市場起点	訴訟、FTO、外部弁護士費用、グローバル権利化	出願前調査、JPO 権利化、R&D 現場、低コスト	ROI 指標と成果物の形式が異なる
証拠	クレーム要素、NPL、Web evidence、pin cite	公報要約、比較、JPO 書面、Word コメント	国際紛争では追加証拠層が必要
統合範囲	Patlytics は広い単一基盤	機能別に複数製品	国内は API/MCP 連結が重要

観点	欧米上位製品	日本上位製品	意味
人の関与	行単位承認または弁理士付きサービス	弁理士監督を明示する製品が多い	弁理士法・品質管理に整合
価格透明性	企業製品は非公開が多い	月額数万円の公開価格が多い	PoC を始めやすい
言語/法域	英語・US/EP、NPL・訴訟が厚い	日本語・JPO 文書が厚い	海外案件はハイブリッドが合理的
成熟度表示	認証、顧客ロゴ、資金調達、事例が豊富	機能発表が先行する場合あり	一般提供/β/構想を契約で分離

総合判断

日本勢が単純に遅れているのではなく、対象業務と制度環境が違う。ただし、NPL・侵害証拠・訴訟チャート・企業セキュリティの公開説明では欧米上位が先行し、JPO 書面・日本語・価格・弁理士監督の設計では国内勢に優位がある。

06 ADOPTION STRATEGY

6. 導入戦略と推奨構成

6.1 用途別の第一候補

目的	第一候補	組み合わせ	選定理由
発明開示の一次判定	IPRally Agent / Tokkyo.Ai	AI Samurai / サマリア	自然文・図面→構造化→根拠付き調査
大量 SDI・ランドスケープ	Patentfield AIR	Patlytics portfolio / IPRally	1 万件級一括処理と可視化
日本 OA	サマリア	弁理士 + ローカル QA	JPO 書面、素案、チェックリスト
米国 OA	Patlytics	US counsel + ClaimMaster	審査記録・引例・戦略・Word QA
グローバル FTO	Patlytics	外部調査 + 各国弁理士	製品資料→請求項→証拠付きチャート
明細書初稿	Paximal / PowerPatent	PatentPal / ClaimMaster	クレーム・図面・用語の整合
国内発明提案～出願	サマリア / AI Samurai	Tokkyo.Ai + 国内弁理士	日本語・JPO・発明者対話
スタートアップ外部化	Lightbringer*	国内弁理士法人の固定価格案も比較	AI + 弁理士 + 案件管理を一括

* 日本出願を含む場合は、日本の弁理士の関与、翻訳、国内提出主体を確認。

6.2 推奨ターゲット・アーキテクチャ

一つの“万能エージェント”に秘密情報と全権限を渡すのではなく、4 層に分けて成果物を受け渡す。各層の出力は、案件 ID、基準日、法域、検索式/指示、引用、モデル/版、承認者を持つ。

LAYER 1 DATA & SEARCH	特許 DB・NPL・社内技術資料。Patentfield / IPRally / Patlytics / IP Samurai MCP
LAYER 2 ANALYSIS	特徴分解、検索母集団、クレーム対比、関連度、リスク仮説。必ず原文引用へリンク
LAYER 3 DRAFT & QA	明細書・OA・チャートの素案。生成 AI と ClaimMaster 型の規則検査を分離
LAYER 4 LEGAL DECISION	発明者、知財部、弁理士/弁護士が採択・修正・提出。FTO/侵害は法域別意見

6.3 8 週間 PoC 案

週	実施	成果物	合否基準
0	対象業務・法域・リスク定義	評価計画、正解集合、秘密区分	法務/情報管理承認
1-2	過去案件 20〜50 件で再現試験	検索結果、チャート、OA/明細書素案	再現率・引用正確性
3	専門家ブラインド評価	誤り類型、重大度、修正時間	重大誤り率と見逃し
4	セキュリティ/契約審査	DPA、サブプロセッサ、保持、削除	必須統制を充足
5	現行業務との並行稼働	TAT、工数、手戻り、利用ログ	総工数削減と品質維持
6	失敗試験	曖昧開示、図面、化学、長文、悪い OCR	安全停止・警告・再現性
7	権限・承認フロー実装	RACI、提出禁止、監査ログ	無承認提出ゼロ
8	投資判断	ROI、対象範囲、契約条件、展開計画	段階導入の承認

6.4 PoC の定量指標

領域	指標
検索	Recall@K、Precision@K、既知 X/Y 文献の再現、検索多様性、NPL カバレッジ
対比表	要素分解正確率、引用一致率、誤引用率、法的状態正確率、ファミリー選択
OA	拒絶類型抽出、引例相違点、補正支持、論点漏れ、弁理士修正時間
明細書	クレーム支持、実施可能性、用語/符号整合、追加事項リスク、発明者修正率

領域	指標
運用	総 TAT、専門家レビュー時間、手戻り、案件単価、採用率、ユーザー継続率
安全	秘密情報漏えい、越境、削除 SLA、誤権限、監査ログ欠損、プロンプトインジェクション

6.5 契約・情報セキュリティ質問票

- 入力・出力・プロンプト・埋め込み・ログはモデル学習、微調整、品質改善に使われるか。既定とオプトアウトは何か。
- 保持期間、バックアップ、削除証明、契約終了時の消去、訴訟ホールドの扱いは何か。
- 処理・保存国、サブプロセッサ、モデル提供者、越境移転の法的根拠は何か。
- 顧客データ分離、暗号鍵、SSO/MFA/SCIM、RBAC、案件単位アクセス、監査ログはあるか。
- MCP/API のツール権限を読み取り専用・検索件数・出力先・案件別に制限できるか。
- 特許データ・NPL・Web 証拠のライセンス、再配布、成果物利用、引用保持の権利は何か。
- モデル・検索インデックス・プロンプト・テンプレートの版を案件単位で固定/記録できるか。
- 重大誤り、誤引用、サービス停止、情報漏えい時の通知、補償、責任上限、専門家賠償はどうなるか。
- 自社データを他顧客の検索・レコメンド・評価へ流用しないことが契約で保証されるか。
- 化学・バイオ、輸出管理、国家安全保障、未公開発明、発明者個人情報の追加統制は何か。

6.6 推奨 RACI

工程	発明者/R&D	知財部	弁理士/弁護士	IT/セキュリティ	AI
発明開示	R/A	C	C	I	構造化・不足質問
検索設計	C	A/R	C	I	候補式・再検索
文献採否	C	R	A	I	関連度・引用提示
クレーム/明細書	C	R	A	I	素案・整合性検査
OA/FTO/侵害	C	R	A	I	分析・比較・素案
データ統制	I	C	C	A/R	ログ・権限内実行
提出/法的意見	I	C	A/R	I	禁止（人が承認）

R=実行、A=最終責任、C=協議、I=情報共有。AI は責任主体ではなく、許可された処理の実行者として記載。

6.7 最終推奨

大企業・グローバル案件

Patlytics を侵害/FTO/OA の企業 PoC 候補、IPRally を新規性・特許性の検索品質ベンチマーク、国内側を Patentfield + サマリアで構成。原文引用と案件ログを共通データモデルで保存する。

国内中心の知財部・R&D

Patentfield で母集団とバルク査読、サマリアで案件単位の調査/OA/明細書、AI Samurai または Tokkyo.Ai で発明者入口を提供。MCP は最小権限・読み取り中心から開始する。

スタートアップ

SaaS 単独より、固定価格の弁理士付きサービスを比較。Lightbringer と国内弁理士法人の AI 活用パッケージを、対象国、翻訳、OA 上限、分割・継続、官費をそろえて総額比較する。

共通の禁止線

AI だけで FTO/非侵害を確定、出願書類を無レビュー提出、未公開発明を一般向け LLM へ投入、引用未確認の OA 反論を採用、モデル更新後に過去評価を無条件継続、は避ける。

07 VALIDATION & SOURCES

7. ユーザー提示情報の検証

提示された説明は市場動向をよく捉えている一方、製品の範囲・現行性・人の関与に重要な修正が必要である。以下は、公開一次情報に基づく判定。

提示された主張	判定	修正・補足
IPRally は開示から特徴を分解し、1.2 億件超を検索、Feature Chart を数分で作る	概ね正しい	約 1.2–1.3 億件表記。ユーザーによる特徴確認あり。Agent は現状新規性中心、NPL 未対応。
Patlytics はサンフランシスコ拠点	要修正	SF 拠点はあがるが、公式採用ページは本社 NYC。
Patlytics が FTO/侵害でクレームと製品仕様を自律比較	概ね正しい	limitation-level 分析と証拠付きチャートを確認。最終法的判断ではない。
Patlytics が審査官の論理的欠陥を自律分析し反論書を提示	表現を弱める	拒絶・引例・記録を分析し、戦略と応答素案を生成。欠陥発見の品質保証は確認できない。
PowerPatent / Specifio は同じカテゴリーの現行製品	要分離	別製品。Specifio は買収済み。現行近接系譜として Paximal を別途評価。
数行の独立項から従属項・図面仕様・本文を網羅的に自律生成	一部未確認	初稿・図面・クレーム支援は確認。PowerPatent の“網羅的従属項展開”は現行公式情報で未確認。
Lightbringer は最後だけ弁理士が確認	不正確	弁理士がドラフト、出願、OA、国際展開まで担当するフルサービス。
ClaimMaster / PatentPal は形式・論理エラーを自律修復	半分不正確	ClaimMaster は検出・助言・自動化が中核。PatentPal は仕様書・図面生成で QA 製品ではない。

8. 主要参考情報

すべて 2026 年 7 月 25 日閲覧。製品仕様・価格・収録件数は変更されるため、契約前に最新版を確認する。

- [1] [IPRally Agent](https://www.iprally.com/agent) <https://www.iprally.com/agent>
- [2] [IPRally Agent Q&A](https://www.iprally.com/news/webinar-q-a-follow-up-your-questions-about-iprally-agent-answered) <https://www.iprally.com/news/webinar-q-a-follow-up-your-questions-about-iprally-agent-answered>
- [3] [IPRally Product Features](https://www.iprally.com/product/features) <https://www.iprally.com/product/features>
- [4] [IPRally Security and Privacy](https://help.iprally.com/en/articles/12991942-security-and-privacy-of-iprally) <https://help.iprally.com/en/articles/12991942-security-and-privacy-of-iprally>
- [5] [Patlytics Platform Overview](https://www.patlytics.ai/) <https://www.patlytics.ai/>
- [6] [Patlytics Office Action](https://www.patlytics.ai/office-action) <https://www.patlytics.ai/office-action>
- [7] [Patlytics FTO Workflow](https://www.patlytics.ai/blog/how-patlytics-quickly-and-affordably-automates-freedom-to-operate-fto-analysis) <https://www.patlytics.ai/blog/how-patlytics-quickly-and-affordably-automates-freedom-to-operate-fto-analysis>
- [8] [Patlytics Patent Application Drafting](https://www.patlytics.ai/patent-application-drafting) <https://www.patlytics.ai/patent-application-drafting>
- [9] [Patlytics Series B / Product Roadmap](https://www.patlytics.ai/news/patlytics-raises-40-million-series-b) <https://www.patlytics.ai/news/patlytics-raises-40-million-series-b>

- [10] [Patlytics Careers / Headquarters](https://www.patlytics.ai/careers) <https://www.patlytics.ai/careers>
- [11] [PowerPatent Product](https://powerpatent.com/) <https://powerpatent.com/>
- [12] [PowerPatent How It Works](https://powerpatent.com/how-it-works) <https://powerpatent.com/how-it-works>
- [13] [PowerPatent Pricing](https://powerpatent.com/pricing) <https://powerpatent.com/pricing>
- [14] [PowerPatent Confidentiality](https://powerpatent.com/blog/confidentiality-concerns-when-using-ai-in-patent-drafting) <https://powerpatent.com/blog/confidentiality-concerns-when-using-ai-in-patent-drafting>
- [15] [Specifio \(Acquired\) Company Profile](https://www.linkedin.com/company/specifioinc) <https://www.linkedin.com/company/specifioinc>
- [16] [Paximal Platform](https://www.paximal.com/) <https://www.paximal.com/>
- [17] [Paximal for In-house IP](https://www.paximal.com/solutions/in-house) <https://www.paximal.com/solutions/in-house>
- [18] [Lightbringer Patent Management Service](https://www.lightbringer.com/patent-management-service) <https://www.lightbringer.com/patent-management-service>
- [19] [Lightbringer Pricing](https://www.lightbringer.com/pricing/pricing) <https://www.lightbringer.com/pricing/pricing>
- [20] [ClaimMaster Platform](https://www.patentclaimmaster.com/) <https://www.patentclaimmaster.com/>
- [21] [ClaimMaster Patent Proofreading](https://www.patentclaimmaster.com/patent-proofreading.html) <https://www.patentclaimmaster.com/patent-proofreading.html>
- [22] [ClaimMaster Patent Drafting](https://www.patentclaimmaster.com/patent-application-drafting.html) <https://www.patentclaimmaster.com/patent-application-drafting.html>
- [23] [ClaimMaster Pricing](https://www.patentclaimmaster.com/CMBuy.html) <https://www.patentclaimmaster.com/CMBuy.html>
- [24] [ClaimMaster Security](https://www.patentclaimmaster.com/CMSecurity.html) <https://www.patentclaimmaster.com/CMSecurity.html>
- [25] [PatentPal Product](https://patentpal.com/) <https://patentpal.com/>
- [26] [PatentPal Terms / Data Security](https://patentpal.com/terms/) <https://patentpal.com/terms/>
- [27] [AI Samurai ONE](https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/) <https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/>
- [28] [IP Samurai MCP Server Announcement](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000021559.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000021559.html>
- [29] [Patentfield Platform and Pricing](https://product.patentfield.com/) <https://product.patentfield.com/>
- [30] [Patentfield AIR](https://product.patentfield.com/air) <https://product.patentfield.com/air>
- [31] [Patentfield AIR Help / Data Handling](https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3) <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
- [32] [Patentfield API-MCP Reference Build](https://note.com/super_whale150/n/n3620fe9b593a) https://note.com/super_whale150/n/n3620fe9b593a
- [33] [Patentfield ISO/IEC 27001 and 27017 Announcement](https://patentfield.com/news/272) <https://patentfield.com/news/272>
- [34] [Summaria Research Support](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>
- [35] [Summaria Office Action Support](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>
- [36] [Summaria Invalidity-document Support](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>
- [37] [Summaria Specification Drafting](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>
- [38] [Summaria Invention Proposal Support](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000086119.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000086119.html>
- [39] [Tokkyo.Ai Agent Platform](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000274.000042056.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000274.000042056.html>
- [40] [Tokkyo.Ai Technology Explorer](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000443.000042056.html) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000443.000042056.html>
- [41] [Japan Patent Attorneys Association: AI Use Guidelines](https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf) <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
- [42] [JPAA: AI Services and Patent Attorney Act Article 75](https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf) <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf>
- [43] [USPTO Guidance on Use of AI Tools](https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-issues-guidance-concerning-use-ai-tools-parties-and-practitioners) <https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-issues-guidance-concerning-use-ai-tools-parties-and-practitioners>
- [44] [METI Gray-zone Clarification Case](https://www.meti.go.jp/policy/jigyousaisei/kyousouryoku_kyouka/shinjigyo-kaitakuseidosuishin/press/221014_shokaisho1.pdf) https://www.meti.go.jp/policy/jigyousaisei/kyousouryoku_kyouka/shinjigyo-kaitakuseidosuishin/press/221014_shokaisho1.pdf

9. 免責・調査限界

- 本書は公開情報に基づく市場・製品比較であり、法律意見、非侵害鑑定、特許性鑑定、投資助言ではない。
- ログイン後の全機能、個別契約、非公開ロードマップ、顧客固有モデル、管理者設定は検証していない。
- ベンダーの短縮率、精度、費用削減、許可率、導入数は、明示がない限りベンダー公表値であり、独立再現試験ではない。
- 検索結果の完全性は、収録国、更新遅延、翻訳、OCR、ファミリー統合、法的状態、NPL、秘密先願等に左右される。
- 価格は税、官費、翻訳、外国代理人、追加 OA、審判、訴訟、データ移行、API/モデル利用、専門家レビューを含まない場合がある。

結語

最も価値があるのは“完全自動”ではなく、根拠付きの下準備を高速化し、専門家の判断時間を増やす設計である。導入の成否はモデル名より、検索基盤、証拠、停止点、権限、監査ログ、弁理士・弁護士
の責任分界で決まる。